

【試合結果】

女子 決勝トーナメント 3位決定戦					
日時	2020年1月13日(日) 11:40 ~				
会場	江別市民体育館Bコート				
結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: middle;"> 東月寒 札幌 </td> <td style="width: 30%; text-align: center; vertical-align: middle;"> 51 </td> <td style="width: 30%; text-align: center; vertical-align: middle;"> 北星学園女子 札幌 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> 49 </td> </tr> </table>	東月寒 札幌	51	北星学園女子 札幌	49
東月寒 札幌	51	北星学園女子 札幌	49		

第34回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

東月寒		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	内山 悠	×	10	0	4	2	13	1
5	附田 菫香	×	8	0	4	0	5	1
6	長濱 歌乃	×	13	3	2	0	0	2
7	田中 千裕	×	20	2	4	6	1	1
8	坂田 麗美	×	0	0	0	0	0	3
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
HC	曾我 麻友美							
合計			51	5	14	8	19	8

北星学園女子		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	田中 陽菜	DNP	0					
5	磯谷 梨々花	×	5	0	2	1	1	3
6	宮本 咲来	×	10	0	5	0	6	1
7	柳田 美良来	/	0	0	0	0	1	1
8	鈴木 ちひろ	DNP	0					
9	澁谷 日菜	×	20	0	10	0	2	1
10	中村 真澄	×	10	0	4	2	13	0
11	長 凜華	DNP	0					
12	佐賀 翠	×	0	0	0	0	2	1
13	野崎 二美乃	/	4	0	1	2	2	0
14	今野 みなみ	DNP	0					
15								
16								
17								
18								
HC	小倉 隆也							
合計			49	0	22	5	27	7

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

札幌地区同士の対戦。東月寒④、⑤、⑥、⑦、⑧、北星学園女子⑤、⑥、⑨、⑩、⑫でスタート。
 「1Q」
 ゲーム開始直後、北星⑤のドライブ、⑨の連続速攻が決まり、立ち上がり1分で0-6とする。東月寒は1回目のタイムアウト。タイムアウト後の最初のプレイでも北星⑨がスチールから得点をする。東月寒は⑦の3Pで応戦。チームでOFリバウンドを取るも、なかなかシュートが決まらない時間帯が続く。その後も北星は交代出場してきた⑬のミドルシュートなどが決まり、6-16で終了。
 「2Q」
 東月寒④のドライブで先制。その後、どちらもシュートが決まらず、2分間ノーゴール。均衡を破ったのは東月寒。⑤のOFリバウンドからの得点、⑦のブレイクが決まり12-16と追い上げる。ここで北星がタイムアウト。タイムアウト後、北星は⑥が落ちて着いてミドルシュートを決め、流れを引き戻す。しかし、東月寒は⑥、⑦の連続3Pで同点とする。両チームともDEFを頑張る、ブレイクを出すもシュートが決まらない。残り1分30秒、東月寒④のフリースローが決まり、この試合初めて、東月寒がリードする。その後も一進一退のゲームが続く。残り3秒で東月寒④のミドルシュートが決まり、26-24と東月寒リードで前半終了。
 「3Q」
 最初のプレイで、北星⑥のリバウンドシュートが決まり、すぐに同点。その後も、⑨、⑩、⑥の連続得点で26-32突き放しにかかる。東月寒はオフェンスをしっかりと組み立てるも、シュートが決まらず、5分間ノーゴール。その後、⑤のシュートで28-32とし、トラップを仕掛ける。32-36となった残り2分弱で北星タイムアウト。東月寒は⑥の3P、一方、北星は⑨のドライブが決まり、35-38で3Q終了。
 「4Q」
 後半立ち上がりの4分はお互いに2得点ずつの重たい始まり。しかし、4分過ぎにゲームが一気に動き出す。残り3分で東月寒⑦のスリースローが2本決まり、45-44と再逆転。両チーム、DEFのカバーが甘くなったところをドライブで得点していく。残り2分で47-46。突き放した東月寒はOBプレイが決まらずも、⑤のミドルシュートで49-46とする。北星はオープンシュートが決まらず、ここまで頑張ってきたOFリバウンドも取れなくなってきた。東月寒が51-46とした残り1分で、北星2回目のタイムアウト。北星がフリースローとミドルシュートで51-49と詰め寄ったところで、東月寒が2回目のタイムアウト。残り14秒。東月寒のボールを、北星が必死に追い、ジャンプボールシチュエーションにする。ポゼッションは北星であるが、残り0.9秒。最後のタイムアウト。北星⑤のシュートで逆転を狙うも、東月寒が死守。3位を決めた。どちらのチームもDEFを頑張る、しっかりと走り、リバウンドにも必死にとびつく姿勢をもっており、今後の活躍が楽しみである。また、この時期に多く見られるターンオーバーも少なく、手に汗握る白熱したゲームであった。